日本語学習支援者養成講座(全3回)をオンライン(Zoom)で開催しました。

～1月22日(土)、2月5日(土)、2月12日(土)～

廿日市市で暮らす外国籍の方々に、日常生活に困らないよう日本語学習の支援や、日本人住民との交流の機会をつくるために、宮内地域に「地域日本語教室」を新たに開設したいと考え、全３回の講座を企画しました。

講座の対象は、ボランティアとして一緒に宮内地域の日本語教室運営に携わっていただける方、とし３０名の応募がありました。

ところが、新型コロナウィルスの感染拡大により、まん延防止重点措置期間で施設の利用制限があり、対面による講座の開催が出来ないことになってしまいました。３０名の方々が支援者として係わろうとしてくださる、その気持ちに応えたくて、オンライン(Zoom)での開催に変更するとともに、講座内容も大幅に変更しました。

講師は、ひろしま国際センター日本語常勤講師であり、県内各地で日本語学習に伴う様々な取組みをされている犬飼康弘さん。最終的に 27 名の方々が参加されました。

第１回【1/22(土)】「地域日本語教室の役割」

第１回目は、『地域日本語教室の役割』というテーマで開催。グループに分かれて、どんな日本語教室にしたいか、理想的な地域日本語教室とはどんなものなのかを話し合いました。

犬飼康弘さん
広島大学大学院教育学研究科博士課程前期修了。1997 年から(公財)ひろしま国際センターにて日本語教育に従事。地域においても、広島県内を中心に、日本語ボランティア講座等を担当。

参加者の声

☆同じ興味を持った方がたくさんいらっしゃって、近いうちに会って色々お話ししたいなと思いました。私も海外の語学学校にいた時やホストファミリーとの生活に困ったことがあったので、日本にいる外国の方達にも少しでも不安を取り除けるように接していけたらと思います。

☆地域日本語教室という存在を初めて知りました。外国の方の支援をしたいという思いで受講希望しましたが、同じ志の方々と繋がることで、私自身もまた新たなネットワークを授かることになると感じました。

☆地域の日本語教室の果たす役割の大きさを感じました。

☆日本語の文法等の学習だけではなく、楽しく参加できる場、相談できる場、また交流等を通して地域との橋渡しが地域日本語教室の役割というのはなるほどと思いました。

☆社会教育の観点から地域日本語教室の大事さが分かりました。外国の方だけでなくだれもが住みやすい世の中でなくてはいけません。社会生活に必要な情報がいきわたり、安心して暮らせる地域・社会に繋がっていくための橋渡しをしていく一つが日本語教室だと思いました。

第２回【2/5(土)】「やさしい日本語」

第２回は、『やさしい日本語』をテーマに開催しました。私たちが日常的に見かけたり話したりする日本語には、外国人の方にとって分かりにくい表現がたくさんあります。その人の母国の言葉は話せないからコミュニケーションできない。と諦めるのではなく、「やさしい日本語」を使うことで、相手の母語にかかわらず、情報を正しく伝えることができることを学びました。

実際に、災害時に送られてくる緊急メールや、学校から配られる保護者へのお手紙などには難しい日本語がたくさん含まれています。これらを「やさしい日本語」に変換するとどんな表現になるか。グループに分かれて話し合いました。また、自分の全く知らない言語で書かれた標識を見て、正しく判断することができるか、という経験を通して、改めて知らない言語の中に身を置くことの大変さを知りました。

～「ことば」を「やさしく」言い換えてみましょう～

〇給水所・・・・水をもらうことが　できる　ところ
〇健康診断・・・元気ですか。体は悪いところがありませんか。そのことを調べます。
〇明日は、お泊り保育のため、10 時の登園になります。
・・・明日は保育園に泊まります。１０時に保育園に来てください。
いつもより遅いです。気をつけてください。

第３回【2/12(土)】「外国人市民の『声』を聴く」

第３回は、『外国人市民の「声」を聴く』というテーマで、実際に廿日市に住んでいる在住外国人８名にゲストとして参加してもらいました。

少人数のグループに分かれて、それぞれゲストの在住外国人の方々とのお話。どんな国から来たどんな人なのか質問をしたあと、日本に来て、困った事、廿日市に住んでいて今、悩んでいることがないかなどを伺いました。

〇近所の人との会話はどうしたらいい？
〇挨拶をしても大丈夫？
〇友達を作りたいけどどうしたら作れるのかわからない。

参加者から、それなら私たちが友達になるよ！これからいろんな活動を通して一緒に関わっていきましょう！と前向きな声がたくさん聞かれました。

地域に外国人の方が住んでいるのは知っているけど、どうやって関わったらいいかわからない、これは我々日本人も同じような悩みを持っている人が多いと気づきました。

今後、宮内地域に立ち上げる日本語教室では、日本語を教えるということだけでなく、お互いに同じ地域に住む住民として、活動を通して関わり合えるみんなの居場所にしたい、講座を通して、改めて地域日本語教室の役割についてみんなで考えることができました。

在住外国人の方々は、ベトナム、フィリピン、イギリス、ガーナから。

技能実習生やお仕事で来られている方、日本人の配偶者、と立場もいろいろです。

～講座を終えて～

参加者の皆さんには、Zoom のインストールから接続確認、本番までの練習、そして本番での不具合、等、講座のオンライン開催にあたりいろんなことがありました。

ボランティア養成講座の醍醐味は、同じ気持ちの人たちと意見交換し、共感すること！仲良くなることなのに、オンラインじゃ、届かない声や思いがいっぱい。講座後、対面での振り返りの会（3/12）を約束して終了としました。つづく。